

1月14日、Sybella Wilkes UNHCR ダマスカス事務所広報担当上級オフィサーを往訪したところ、先方発言以下のとおり。

(シリアにおいて登録されているイラク難民の数およびイラク人在留者数を知っているかとの問いに対し、) 22万人のイラク人難民が登録されており、その内、1万人が人道的な支援を緊急に必要とする人々である。イラク人在留者数は把握していないが、110万人とも言われている。

(援助の状況とホスト国の貢献) シリアは、最後までイラク人を受け入れてきた稀有な国である。UNHCR は、現金の支給、相談等の対応、2カ月に一回の食料の支給、再定住のあっせん等を行っている。これらの支援を受けているイラク人は、現時点の登録で19万2千人いる。シリア政府は直接の難民支援に資金供与等を行っていないが、シリア国内で消費される物資の多くには政府からの補助金が含まれており、これらがイラク人に対する間接的な支援となり、十分とは言えないインフラに対する負担と共にシリア政府に多大な負担を強いている。

(再定住努力) 現在シリアに滞在しているイラク人の内、10万人程度が迅速な第3国への再定住を望んでいる。これまでは、域内国への再定住が多かったが、これからは欧州やアメリカに対して受け入れを促していかなければならない。

(イラクへの帰国状況如何、またイラク政府による帰国支援は十分であるか、との問いに対し、) シリアからの帰国者数は、UNHCR が国境に張り付いているわけではないので把握していない。イラク政府による帰国支援は、難民にとって十分な帰国に対するインセンティブになっていないようで、期待に応えていないと考える。

(UNHCR は、イラク人の帰国に十分な状況が整っていないとの判断のようであるが、との問いに対し、) UNHCR は帰国を許可したり、あるいはイラクの状況を判断する立場にはなく、イラク人が彼らのコネクションを通じて得る情報の方が最新で且つよい情報である場合が多い。イラク人の多くは、シリアにおける厳しい生活環境にもかかわらず、帰国を望んでおらず、このことは、イラクへの帰国に十分な環境が整っていないことを示しているようである。

(シリア国内では、物価の高騰をイラク人のせいにする声もあるようだが、との問いに対し、) 物価の値上がりは世界的な傾向であり、イラク人のせいにするのは早計である。確かに、シリア国内における借家料金の値上がり等にイラク難民が関係している事実は否定できない。

(イラク人難民に固有の問題はあるか、との問いに対し、) イラク人難民の多くはある程度のたくわえを持って出国し、シリアに来る。UNHCR に来るのは、これらのたくわえが底をついてからである。病気になったので直ちに支援してほしいといわれても、我々は、「なぜ3か月前に申請しなかったのか」と言うしかない。

(宗派を超えた婚姻はイラク国内で問題となっているが、シリアにおけるイラク人の間ではどうか、またシーア派地域にはシーア派のイラク人のみが居住しているのか、との問い

に対し、) ユニークなことに、シリアにおいては、たとえばサイエダ・ザイナブのような地域にもスンニー派やキリスト教徒が居住している。おそらく、イラク人が集まっており、イラク人の生活に必要なものがそろっていることがその一因であろう。

1月14日、ダマスカス市イラク難民申請所を往訪した大野に同行したダリア・アル＝アシーUNHCR 広報担当は以下のとおり述べた。

イラク難民申請所は、2007年8月に、民間の工場兼倉庫を借り上げ、その他の国からの難民とは別にイラク人のためだけに設けられた施設である。それまでは、数名の担当者でイラク人難民の申請を受け付けてきたが、毎日7000名もの申請者に対応することができずに、人員を250名（内、申請受付担当者は50名）に増員すると共に、イラク人のためだけの施設を借り上げた。施設では、新規申請者の受付とインタビューの期日指定、インタビューの実施と現金供与及び供与のためのフォローアップ調査、相談受付、2か月に一度の食糧配給等を行っている。

（イラク人申請者の数）現在では、新規申請者は毎日700－1000名程度に減少している。一時期、申請者が増加した背景には、シリア以外の隣国がイラク人難民入国を厳しく制限したことがある。逆に、減少した背景には、シリアも入国を制限したことがあげられる。その他の国が窓口を閉ざす中で、シリア政府が入国者に制限をかけたことを責めることはできない。

（イラク人の帰国について）イラク政府の帰国用交通手段の提供や帰国支援金は現在行われていない。これらの措置がイラク人の帰還を促す有効な手段であったのは、措置導入当初の1週間程度であった。

（イラク人固有の問題について、）イラク人は政府も国連も隣人も信じておらず、インタビューに際しても、すべてを告白しないものが多い。また、非常に我慢強く、本当に困るまで支援を受けることを潔しとしない。このことはUNHCR にとっての支援・救済措置の遅れを招いてしまっている。